

エルサルバドル政治経済月報 (2022年1月分)

2022年1月
在エルサルバドル大使館

内政

1. 和平合意署名記念日の廃止

(1) 1月11日、国会は、1月16日の和平合意署名記念日を廃止し、同日を「武力紛争による犠牲者の日」とする法令を可決した。なお、和平合意署名記念日は1992年1月16日に署名された和平合意を記念する日であり、1993年10月20日に当時の国会が祝日と定め、本年30周年を迎える予定であった。

(2) 1月16日、和平合意署名30周年記念日に合わせ、首都サンサルバドル市において大規模な反政府デモが発生した。報道によれば、デモの主な目的はブケレ政権の意向を受けた当国国会による和平合意署名記念日を廃止する法令の可決への抗議であるが、ブケレ政権による人権の軽視やメディアへの弾圧、ビットコインの法定通貨化等への抗議も含まれていたとのこと。

外交

1. ブケレ大統領の外遊日程

1月11日、国会は、ブケレ大統領の2022年の外遊日程を承認した。なお、今後、外遊先が変更、追加される可能性は残されている。

- (1) トルコ：1月20日～21日
- (2) UAE：1月22日～26日
- (3) スペイン：2月26日～3月1日
- (4) フランス：3月2日～5日
- (5) 韓国：7月
- (6) シンガポール：7月
- (7) ロシア：7月
- (8) 国連：9月
- (9) スペイン：10月
- (10) イタリア：10月

2. ヒル外務大臣の第12回国際再生可能エネルギー機関（IRENA）総会への出席

1月15日～16日、ヒル外務大臣は、アラブ首長国連邦（UAE）のアブダビで行われた第12回国際再生可能エネルギー機関（IRENA）総会に出席し、議長を務めた。総会の冒頭、フランチェスコ・ラ・カメラ IRENA 局長は、本年開催予定のグローバル地熱同盟大臣会合の開催地がエルサルバドルになることを発表。ヒル外務大臣は、地熱発電を電力源とする持続可能でレジリエンス、かつ包摂的な都市を建設するビットコインシティ構想について言及するとともに、他国にエルサルバドルの経験を共有する考えがある旨述べ、同構想への投資を呼びかけた。また、ヒル外務大臣とカメラ IRENA 局長の間で、エルサルバドルの脱炭素に係る協力合意に署名が行われた。

3. ブケレ大統領のトルコ訪問

(1) 1月20日～21日、ブケレ大統領はトルコを公式訪問し、エルドアン・トルコ大統領と非公式の位置づけで会談を行った。会談終了後、両首脳による共同記者会見が行われ、ブケレ大統領は「トルコはめざましい成長を遂げており、数年後には強大な国家となるポテンシャルを秘めて

いる。エルサルバドルは歴史的に米国のみを注視した外交を行ってきたが、多角化を進めることはエルサルバドルにとって重要であり、トルコはその一国である」と述べた。また、記者会見に先立ち、ヒル外務大臣とチャヴシュオール・トルコ外務大臣との間で6つの協力合意に署名が行われた。エルサルバドル政府によると、これらの協力は教育、農業、ロジスティックインフラ、クリーンエネルギー、軍事機器、航空宇宙開発の分野に関するものである。

(2) ブケレ大統領はトルコ訪問中、トルコ請負業界代表及びトルコ航空宇宙産業代表とそれぞれ会談した。また、駐トルコ・エルサルバドル大使館が開所した。

4. カストロ国会議長と栗戦書中国全国人民代表大会常務委員長とのオンライン会談

1月20日、カストロ国会議長は、栗戦書中国全国人民代表大会常務委員長とのオンライン会談を行い、両国それぞれの立法府の仕組みについて意見交換を行った。報道によれば、カストロ国会議長は、双方がエルサルバドル・中国の二国間関係を発展させるために取り組み続ける意思を有していること、また、両国の絆を強化し続けることの重要性で一致したことを喜ばしく思うと述べ、栗委員長は、両国立法府の長による会談は、両国の交流及び協力を促進するものであるとして祝意を述べたとのこと。

経済

1. ビットコイン債発行にかかる動き

(1) セラヤ財務大臣は、本年2月または3月に第一回目のビットコイン債を発行する予定である旨明らかにし、同債券で調達した資金を2023年1月に償還予定である8億ドルのユーロ債に充てる可能性に言及した。

(2) セラヤ財務大臣は、2022年予算における4億9,800万ドルの収入ギャップ、さらには2023年1月に償還予定の8億ドルのユーロ債等、多額の資金を調達する必要がある中で、国内外向けの国債発行、国際金融機関との借款交渉や投資銀行からの直接借款等、様々な選択肢が存在し得るなか、ビットコイン債発行も1つの手段である旨言及した。

(3) さらに同大臣は、既存の債券市場への関心を失ったわけではなく、これらの市場とビットコイン債発行を資金調達の国家戦略としていく旨強調した。

2. 2022年エルサルバドルの経済成長率の見通し（世界銀行）

(1) 1月1日、世界銀行は、2022年の「世界経済見通し」に係る報告書を発表した。同報告書は、2022年におけるエルサルバドルの経済成長率を4.0%と予測した。本予測値は、2021年10月に世界銀行が予測した当国の経済成長率と同じであり、また、エルサルバドル中央銀行（BCR）の予測値とも一致する。

(2) 同報告書によると、2022年におけるエルサルバドルの経済成長率は、中米諸国においてパナマ、ホンジュラスに次ぎ、3番目に高い経済成長率になる見通しであるとし、2023年における当国の経済成長率は2.5%と予測した。

(3) また、同報告書は、2022年における世界全体の経済成長率は4.1%、2023年は3.2%と予測する一方、中南米地域における2022年の経済成長率は2.6%、2023年は2.7%と予測した。

(4) さらに世界銀行は、世界経済が、オミクロン株に対するヨーロッパ諸国や米国の新たな規制、世界的なロジスティクス危機、さらにはインフレ率の上昇に直面しており、持続的なインフレ率の上昇と財政政策の更なる引き締めが、予測よりも鈍い成長に繋がる可能性がある旨分析した。

(5) 中米諸国における経済成長率は以下のとおり。（なお、2021年は推定値、2022年以降は予測値）

ア ベリーズ：-16.8%（2020）、9.0%（2021）、4.0%（2022）、1.8%（2023）

イ コスタリカ：-4.1%（2020）、5.0%（2021）、3.5%（2022）、3.2%（2023）

ウ エルサルバドル：-7.9%（2020）、8.0%（2021）、4.0%（2022）、2.5%（2023）

- エ ホンジュラス：-9.0%（2020）、4.7%（2021）、4.4%（2022）、3.8%（2023）
オ ニカラグア：-2.0%（2020）、5.5%（2021）、3.0%（2022）、2.5%（2023）
カ パナマ：-17.9%（2020）、9.9%（2021）、7.8%（2022）、5.0%（2023）

3. 2021年のインフレ率発表

（1）エルサルバドル中央銀行（BCR）は、当国における2021年のインフレ率が6.12%であった旨を発表した。同数値は、当国が米ドルを法定通貨として採用以降、最も高い数値となった。

（2）メンブレーニョ当地経済アナリストは、2022年にはインフレ率が7-8%の水準に到達する可能性がある旨指摘しつつ、「インフレ率の上昇は2022年上半期まで続くが、その後は下降すると見られる。パンデミックに絡む問題が生じるなど何が起きるか分からないことから確実な保証はないが、一般的には下降することが予想される。」と述べるとともに、「（我々は）プライステイカー（注：市場価格に影響を与えない価格需要者）であり、何か対策を行えるための自国通貨を所有していないことから、米国の動向と密接に関連している。」と説明した。

（3）また、レムス当地経済アナリストは、インフレ率の上昇を生み出している要因として、米国が通貨供給量の拡大を抑え、金利を引き上げたこと、また、エネルギー及びロジスティクスにかかる問題（の解決）が予想通りに進んでいない点も考慮する必要があるとし、2021年ほどインフレ率の上昇は見られないとするものの、同傾向は本年上半期まで続くと予想した。

（4）報道によれば、当国では2021年、トマト、油、鶏卵、トルティージャやフランスパン等の価格が最も上昇し、2022年において最も価格が上昇するのは乳製品であるとされている。国連食糧農業機関（FAO）が発表する世界食糧価格指数は、2021年全体では平均125.7ポイントと、前年比28.1%上昇しており、レムス当地経済アナリストは、貧困層は僅かな経済資源を全て食料に消費することから、インフレは彼らにとって厳しいものである旨指摘した。

4. 2021年の郷里送金額の発表

（1）エルサルバドル中央銀行（BCR）は、2021年における当国の郷里送金総額は75億1,710万ドル（前年比26.8%増）となり、同項目の統計を取り始めた1991年以降、最も高い数値となった旨を発表した。

（2）2021年の郷里送金総額は、同年における当国の輸出総額である66億2,880万ドルを上回り、さらには、2021年12月の郷里送金額は7億5,010万ドルで、直近30年間における月別の郷里送金額において、最も高い数値となった。

（3）郷里送金総額全体のうち米国からの送金が71億3,050万ドル（前年比24.9%増）であり、全体の94.9%を占めた。米国に次ぎ、送金元の主要諸国であるカナダ、スペイン、イタリア及びメキシコからの郷里送金総額は、前年比18.4%-24.5%増となった。

（4）また、2021年の郷里送金総額のうち送金業者を利用しての送金が引き続き主要な送金手段となっており、同業者が全受取額の62.7%、銀行が34.7%、仮想通貨のデジタルウォレットが0.8%を占めた。

5. 2021年の貿易総額の発表

（1）エルサルバドル中央銀行（BCR）は、2021年における当国の輸出総額は66億2,880万ドル（前年比31.8%増）となり、2019年と比べ12.3%増となった旨を発表した。ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）は、2021年における中南米全体の輸出総額は前年比25%増になると予測しており、エルサルバドルはECLACの予測値を6.8%上回ったことになる。

（2）製造業（除くマキラ産業）が輸出総額の多くを占め、同輸出額は51億7,700万ドル（前年比30.9%増）となった。また製造業の中では、衣類の輸出額が最も高く12億8,500万ドル、次いで加工食品が9億5,420万ドル、繊維が5億1,770万ドル、ゴム及びプラスチック製品が4億5,460万ドル、紙類が3億6,760万ドルとなった。

（3）マキラ産業による輸出額は12億5,180万ドル（前年比40.8%増）を記録し、また同輸出部門において、衣類の輸出額が最も高く、8億6,420万ドル、次いでコンデンサーが2億4,120万ドルとなった。その他、コーヒー豆の輸出額は1億2,280万ドル（前年比13.6%増）、砂糖は2億70

万ドル（前年比 7.1%増）となった。

（４）当国における主要な輸出先は中米であり、同地域への輸出額は 30 億 660 万ドル（前年比 35.3%増）で全輸出総額の 45.4%を占めた。米国への輸出額は 26 億 1,410 万ドル（前年比 32.5%増）で全輸出総額の 39.4%を占め、次いでメキシコへは 1 億 4,050 万ドル、パナマへは 1 億 2,440 万ドル、ドミニカ共和国へは 1 億 1,160 万ドルとなった。

（５）他方、2021 年における輸入総額は 150 億 7,590 万ドル（前年比 47.1%増）となった。主要輸入相手国は米国で、同国からの輸入額は 40 億 9,040 万ドル、次いで中国が 25 億 3,170 万ドル、中米が 33 億 300 万ドル、メキシコが 12 億 2,720 万ドル、韓国が 3 億 6,790 万ドルとなり、これら諸外国及び地域からの輸入額は全体の 76.4%を占めた。

（６）輸入部門において、消費財の輸入額は 57 億 1,820 万ドル（前年比 35.8%増）、中間財が 59 億 2,529 万ドル（前年比 57.1%増）となった。中間財部門では、製造関連の輸入額が最も高く、右額は 44 億 2,710 万ドル（前年比 56.8%増）、次いで建築が 9 億 6,370 万ドル（前年比 77.0%増）となった。資本財の輸入額は 27 億 2,590 万ドル（前年比 52.9%増）で、同部門で顕著な成長を記録したのは運輸・通信（前年比 82.9%増）、製造（前年比 54.9%増）及び商業（前年比 214.8%増）となった。

（７）情報通信技術（ICT）に関連する輸入額は 9 億 8,350 万ドル（前年比 81.1%増）となり、同部門においてコンピューター及び周辺機器が 4 億 1,030 万ドル（前年比 207.3%増）、携帯電話及びその他の通信機器が 3 億 5,740 万ドル（前年比 28.5%）となった。

（８）石油の輸入額は 18 億 2,970 万ドル（前年比 92.9%増）、同部門においては、ガソリンの輸入額が最も高く、6 億 2,830 万ドル（前年比 95.7%増）、ディーゼルが 4 億 6,960 万ドル（前年比 92.0%増）、その他プロパンガスが 2 億 9,860 万ドル、液化ガスが 1 億 20 万ドル、重油が 1 億 650 万ドルとなった。

（９）2021 年における貿易収支額はマイナス 84 億 4,720 万ドルであり、貿易赤字は前年比 32 億 2,760 万ドル増となった。BCR は、貿易赤字の増加は国内生産及び消費のための輸入が増加しただけでなく、様々な商品価格が上昇した結果によるものだとした。

6. 当国政府によるビットコインの追加購入

1 月 21 日、ブケレ大統領は、自身の SNS にてエルサルバドル政府が 410 ビットコインを購入し、約 1,500 万ドルをこの購入に充てたと発表した。今回のエルサルバドル政府によるビットコインの追加購入は、ビットコインの価格が急落し、仮想通貨の専門家が同仮想通貨の投資により利益を得られると指摘していた時期に行われた。これまでエルサルバドル政府は 1,391 ビットコインを購入しており、今回の 410 ビットコインを合わせれば、合計で 1,801 ビットコインを保有していることになる。なお、報道によれば、ビットコインの価格下落は、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引締め政策により加速すると見られ、また、ビットコインをめぐる他国の更なる規制強化も同仮想通貨の価格に影響を与えるとされており、英国政府は、誤解や虚偽の広告を防ぐために、仮想通貨の広告を監視する用意がある旨発表したとのこと。

7. ラテンアメリカ開発銀行（CAF）加盟の動き

（１）エルサルバドル政府は、国会に対しラテンアメリカ開発銀行（CAF）への加盟と、そのために必要な B シリーズと呼ばれる CAF が発効する株式（1 株当たり 14,200 ドル）を 7 年に亘り 32,397 株（総額 460,037,400 ドル）購入することについて承認を求めた。

（２）報道によれば、2021 年 12 月 7 日、セルヒオ・ディアス＝グラナドス・ギダ CAF 総裁とセラヤ財務大臣は、エルサルバドルの CAF 加盟にかかる取り決めを交わし、株式購入を通じてエルサルバドル政府は 2022 年 9 月 30 日までに 65,717,600 ドルを支払うとともに、2028 年まで同額を毎年支払う必要があるとされている。

（３）CAF 加盟にかかる株式購入や資金調達先の多様化をめぐり、野党勢力からは批判の声が上がっている。Nuestro Tiempo 党所属のジョン・ライト・ソル国会議員は、国際通貨基金（IMF）との交渉は、当国のカントリーリスクが高まっているために、市場での新規国債の発行も含め、他の資金調達の可能性と同様に保留の状態になっている旨述べた。また、国民共和同盟（ARENA）所

属のレネ・ポルティージョ・クアドラ国会議員は、「(CAF 加盟のための資金は) 保健、教育や地方自治体の事業といった他の分野に投資できるだろう」と指摘した。また、ファラブンド・マルチ民族解放戦線 (FMLN) 所属のアナベル・ベジョソ国会議員は、CAF 加盟の動きは、当国の資金調達先が尽きていることを反映している旨発言した。

(4) 他方、国民統合のための大連合 (GANA) 所属のギジェルモ・ガジェゴ国会議員は、本取り決めはエルサルバドル政府が合意したものであるため、国会は承認しなければならず、当国政府は中南米地域における他の資金調達先を探している旨述べた。

(注: 3月8日、エルサルバドルの CAF 加盟が認められた。)

8. 4条協議にかかる国際通貨基金 (IMF) 理事会の評価

1月25日、国際通貨基金 (IMF) は1月24日に終了したエルサルバドルとの4条協議にかかるプレスリリースを発売したところ、概要以下のとおり。

(1) エルサルバドル経済情勢

ア 新型コロナウイルス (COVID-19) によるパンデミックは、これまでの10年間に亘る経済成長の停滞を招いたものの、エルサルバドル経済は急速に立ち直りつつある。堅調な外需、郷里送金や2020年4月に承認された IMF 緊急融資制度 (RFI) の枠組み (3億8,900万ドル分の特別引出権 (SDR)) を活用したパンデミックに対する堅実な対応が、急速な回復を支えている。2020年の経済成長率はマイナス7.9%となったものの、2021年は約10%、2022年は3.2%の経済成長を予測している。

イ 他方、公的債務にかかる脆弱性が浮き彫りとなった。継続する財政赤字と膨大な債務返済により、資金調達の必要性は高まりつつある。2021年における財政赤字はGDP比で5.8%、2022年には約5.0%とされている。公的債務残高はエルサルバドル政府による現状の政策では、持続不可能な軌道を描きながら2026年にGDP比で約96%に到達するとされている。

ウ 2021年9月以降、エルサルバドル政府は法定通貨としてビットコインを採用したものの、仮想通貨を法定通貨として採用することは、金融や市場における規範性、金融の安定性や消費者保護に対する重大なリスクを招くのと同時に、偶発的な債務 (超過) を引き起こす可能性もあるとされている。

(2) IMF 理事会による評価

ア IMF 理事会は、パンデミックに対し、エルサルバドル政府が、迅速かつ効果的な方法により、経済的・人的被害を抑えることに貢献したとした。エルサルバドル経済は力強く回復し、同国は同地域において、COVID-19の感染者数及び死者数を低く抑えている国の1つでもあると評価した。

イ IMF 理事会は、GDP比における公的債務の増大による財政の脆弱性は、パンデミックを通して深刻化していることから、迅速な対応を必要しているとした。大規模かつ増大する資金調達の必要性が、当国の中期的な成長を阻害しているとして、財政構造改革を行う必要性を強調した。同様に、包括的な成長を促進するためにも、その他の構造改革の重要性も強調し、犯罪の減少、官僚主義的な手続きの削減、エネルギーコストの削減やインフラ及び保健と教育を含めた社会的支出に対する投資を促進させる必要があるとした。

ウ IMF 理事会は、2022年から財政再建を推し進める必要があることにエルサルバドル政府がおおむね合意したとし、また同再建は、公的債務を安定した方向で減少させていく持続可能な財政運営を目指す質の高い歳入・歳出に基づくべきだとした。このような背景の下、IMF 理事会は財政管理の近代化及び財政リスク評価のために取られている諸措置を認識した。

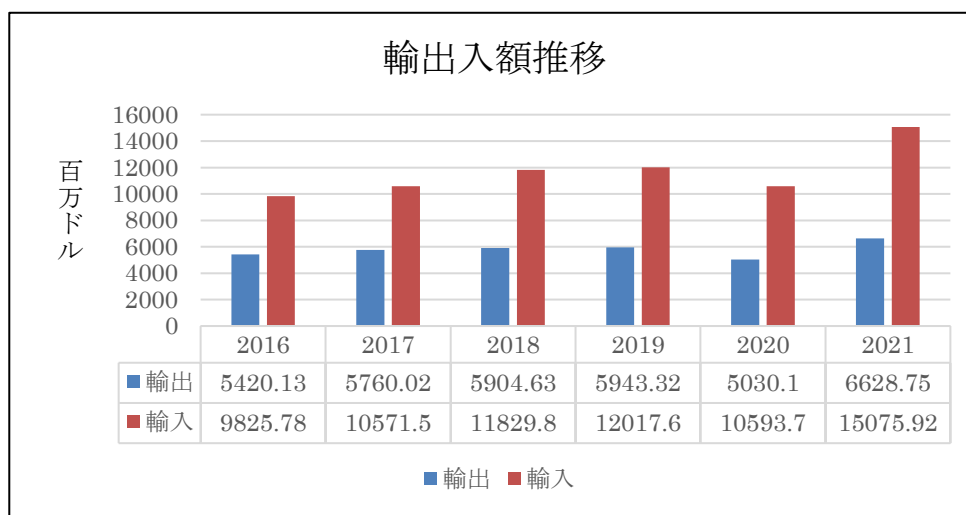
エ パンデミックの間、銀行によって流動性の維持や家計・企業の債務返済にかかる支援のために例外的な措置が取られていた点に関し、IMF 理事会は、銀行が正常化のために取り得る方針を注視する必要性を強調し、銀行危機を回避するための枠組みを決定することを評価した。

オ IMF 理事会は、金融包摂を促進する重要性に同意し、エルサルバドル政府の公式デジタルウォレット「チボ」等のデジタル決済手段が、金融包摂の役割を担う可能性を認識したが、「チボ」及びビットコインにおける新たなエコシステム (注: それぞれの企業・サービスが相互に依存及び関連しあい、1つのビジネス圏を構成することを表すビジネス用語) の規則及び監督を強化する必要性を強調した。また同理事会は、ビットコインの使用には偶発的な債務発生の可能性があ

るように、金融の安定性や健全性、さらには消費者保護という観点で重大なリスクがあることを強調した。同理事会は、エルサルバドル政府にビットコインを法定通貨とすることを取り止め、ビットコイン法の適用範囲を狭めるよう求めた。IMF 理事会のメンバーの中には、ビットコインを担保としたビットコイン債発行による様々なリスクを不安視している者もいるとした。カ IMF 理事会は、COVID-19 の緊急対策における公的資金の使途にかかる情報の公表、会計検査院による財政の透明性や会計報告を更に改善し続ける決定を評価した。また同理事会は、汚職防止や AML/CFT（マネーロンダリング/テロ資金供与防止）の枠組みを国際基準に従い促進するよう求めるのと同時に、統計の枠組みを改善するよう促した。

9. 貿易総額

・2021年の輸出総額は66億2,880万ドル（前年比31.8%増）。輸入総額は150億7,592万ドル（前年比47.1%増）となった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

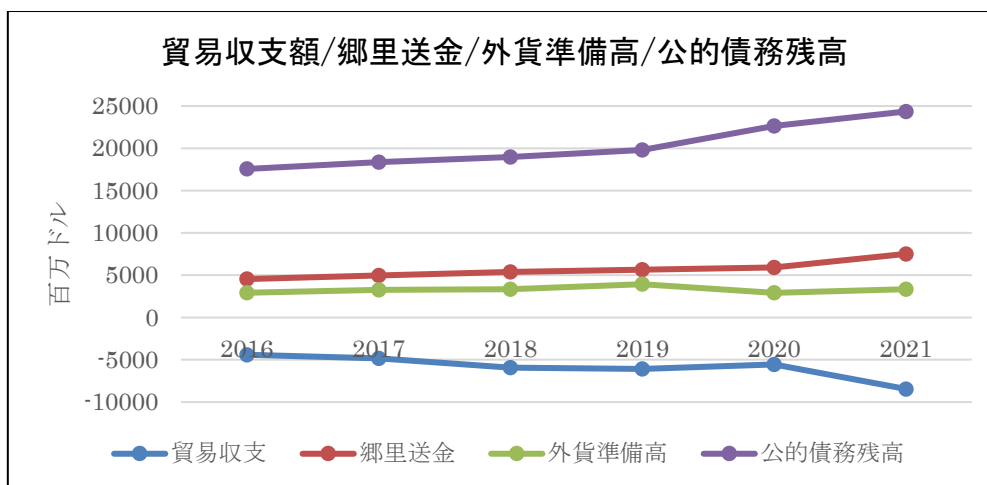


（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

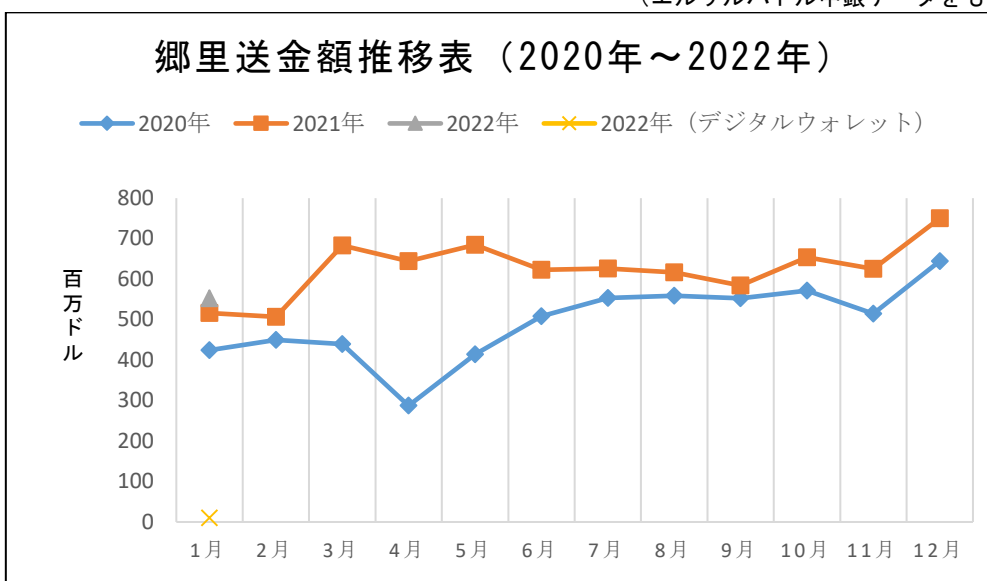
10. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

・2021年の貿易収支額はマイナス84億4,720万ドルとなり、前年より赤字額が28億8,357万ドル拡大した。

・2021年の郷里送金額は75億1,710万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の94.9%（71億3,050万ドル）を占めた。



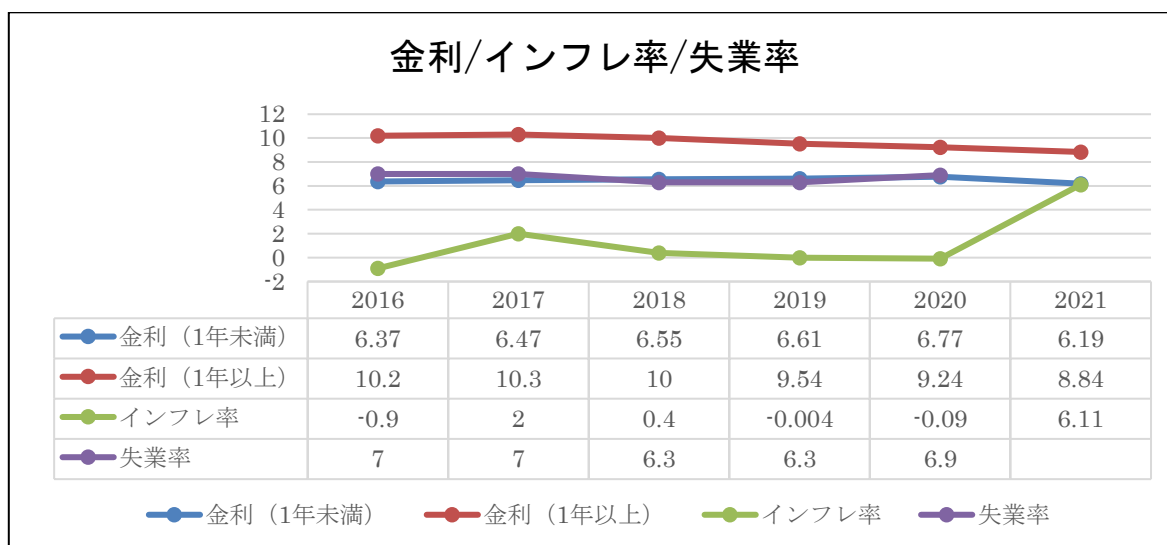
(エルサルバドル中銀データをもとに作成)



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

11. 金利・インフレ率

・2021年のインフレ率はプラス6.11%であった。また2020年のインフレ率はマイナス0.09%であった。また2020年の失業率は6.9%であった。



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

治安

1. 中米地域における違法取引犯罪の拡散

1月4日付当地主要紙「ラ・プレンサ・グラフィカ」紙は、国際的なNGOが発行した2020年の世界の違法取引犯罪指数等の報告書において、中米地域が世界で最も犯罪指数の高い3つの地域の1つと位置づけられたとして以下のとおり報じた。

(1) 国際組織犯罪に対するグローバルイニシアチブ (GI-T0C : La Iniciativa Global contra el Crimen Organizado Transnacional) による2020年の世界各地の違法取引犯罪指数等を纏めた報告書によると、中米地域は、銃器の密売、コカイン取引、人身売買及び密入国等の違法な取引において最も高い指数を示す3つの地域のうちの1つとされた。右報告書は世界各地における違法取引犯罪の拡散度合を、最も低い1から最も高い10までのポイントで示すものであり、違法な取引には、人身売買、密入国、武器の密売、コカイン、ヘロイン、合成麻薬、大麻、動植物、再生不能な資源に関する取引の全10項目から構成されている。

(2) 中米地域の犯罪指数は、6.16ポイントと米州内で最も高く、違法な取引別で見た場合、コカイン取引に関する指数が最も高く7.44ポイント、次いで人身売買6.44ポイント、武器の密売6.25ポイント、密入国が6.19ポイントとなっている。他方、カリブ諸島の国は、アメリカ大陸内において最も低い4.05ポイントとなり、コカイン取引6.62ポイント、武器の密売4.54ポイントとなっている。なお、報告書では、米州のみならず、全世界においてもコカイン取引が急速に拡大しているとした。

(3) また、同報告書において、中米の北部三角地帯に属する諸国 (エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ) のギャンググループは、地元のコミュニティ、商店、移民への恐喝により金銭を得てきたが、新型コロナウイルスに係るパンデミックの影響により、恐喝を一時的に中止せざるを得ない状態となり、それは犯罪組織に別の新しい搾取の機会を与えることになった、と述べている。

(4) 加えて、報告書では、世界各国の各種犯罪発生に対する対応力 (数字が大きいほど対応力が高い) に関しても調査しており、中米地域の右平均値は4.05ポイントと、米州内で最も低く (アメリカ州内の平均値は4.83ポイント)、世界で最も高い国は、フィンランドとリヒテンシュタインが8.42ポイント、ついでニュージーランドが8.38ポイントであった。

(5) 更に報告書は、世界人口の3/4以上の人々が違法取引犯罪指数 ((1) 参照) の高い国に居住しており、世界各地の違法犯罪取引において、人身売買が最も多く存在することが判明したとし、人身売買は、大規模な移民により発生し、時に密入国にも関連し、他の要因として紛争、絶望的な社会経済の状況が挙げられる。そして最も重要なこととして、犯罪は特に中米地域で発生している、としている。

2. 治安当局の制服を不正に所持・使用した犯罪者に関する過去6年間の統計

1月5日付当地主要紙「ディアリオ・エルサルバドル」紙は、警察及び軍の制服を不正に所持・使用した犯罪者に関する過去6年間の統計に関して以下のとおり報じた。

(1) エルサルバドル検察庁の統計によると、2015年1月1日から2021年10月31日の間、警察もしくは軍 (以下、治安当局) の制服を不正に所持もしくは使用した容疑により304名が逮捕されていたことが明らかになった。

(2) 逮捕者304名のうち、現行犯逮捕が302名、検察庁からの逮捕命令によるものが2名で、全逮捕者の48%に相当する145名が、治安当局の制服を使用して様々な犯罪を企てたギャンググループのメンバーであった。逮捕者は2015年が最多の96名 (42名) で、2016年に65名 (28名)、2019年55名 (26名) となっている (括弧内の数字はギャングメンバーの逮捕者数)。

(3) 逮捕者304名のうち、既に83名が右犯罪により有罪判決を受け、懲役3~30年を命じられている。また、有罪判決を受けた者のうち、少なくとも45%に相当する37名がギャンググループのメンバーであった。有罪判決の下された年度別で見た場合、2016年の26名 (13名) が最

も多く、次いで2015年の18名、2017年が12名（6名）で、2021年もギャングメンバー6名に対して有罪判決が下されている。なお、サンサルバドル県での有罪判決が下されたケースが28件と最も多かった（括弧内の数字はギャングメンバーの数）。

(4) 関係者によると、犯人は制服を着用して治安当局員に扮し、主に住居や商業施設への侵入、窃盗、殺人を犯すための住居への侵入、車両強奪といった目的で同制服を不正に使用していた。また、犯人は、犯行の内容に応じて4~7名のグループで行動し、拳銃や散弾銃等で武装していたとのこと。

3. ホセ・シメオン・カニヤス中米大学（UCA）によるアンケート結果

1月15日付当地主要紙「エル・ディアリオ・デ・オイ」紙は、ホセ・シメオン・カニヤス中米大学（UCA）が実施したエルサルバドル情勢に関するアンケートの治安関連の結果について以下のとおり報じた。

- (1) ホセ・シメオン・カニヤス中米大学（UCA）の世論研究所（Iudop:El Instituto Universitario de Opinion Publica）は、全国1,298人を対象にエルサルバドルの情勢に関するアンケート調査を実施した。
- (2) 右アンケートにおいて2021年のエルサルバドル国内の治安への不安に関する質問に対して、「変わらない」と返答した人が41.4%、次いで「減少した」32.2%、「増加した」26.6%との回答となった。また、治安に不安を感じると回答した53.7%が、「居住している地区において犯罪が起こっている」ことを理由に挙げ、20.4%が「居住する地域若しくは周辺にギャングもしくはマラスの存在がある」、17.8%が「ギャングの存在は無いが、警察による地域の巡回が行われていない」ことを理由に挙げた。他方、犯罪については、2020年との比較では、回答者の40.2%が「犯罪が減少した」と考え、37.4%が「変わらない」、22%が「増加した」との結果となった。
- (3) 「政府による犯罪地域コントロール計画は、ギャンググループが支配する地域の奪還に成功したか？」という質問に対しては、「いいえ」が46.9%、「はい」44.6%の結果となった。また、これらの状況において、回答者が独自に実施している防犯対策として、「危険な地域を歩かない」と回答した人が21.4%、「子どもを通りて遊ばせない」、「自らが居住する地区に見ず知らずの人が出入りすることを回避するため、訪問を断った」という回答者が20.9%存在した。また、回答者の66.7%が、暴力事件や脅迫から家族を守るため、引っ越しせざるを得なかったと回答しており、少数ながら政府公式のデジタルウォレット「チボ」のダウンロードを行った際に付与される30米ドル分のビットコインを横領することを目的に、右アプリのダウンロードを強要するため、自宅まで押しかけられたというケースもあった。
- (4) 2021年の行方不明者の増加問題に関して、ビジャトロ司法・公共治安大臣の手腕が悪い、またはとても悪いとする評価が62.1%を占め、回答者の51.2%は、本当の殺人事件数が隠蔽されているという兆候であるとの認識を持っている。なお、政府とギャンググループによる取引の可能性の有無に関しては、回答者の60.2%は、取引の事実はないと信じている。

4. 2021年の殺人事件に関する統計

1月25日及び26日付当地主要紙「ラ・プレンサ・グラフィカ」紙は、当国の2021年の殺人事件の統計に関して以下のとおり報じた。

- (1) エルサルバドル法医学研究所（IML:Instituto de Medicina Legal）による2021年の殺人事件発生件数に関する統計を調査したところ、2021年は、2020年との比較において、ラリベルタ県で30件、ラパス県で21件、その他ソンソナテ県、サンタアナ県、カバニヤス県においても、それぞれ1~4件殺人事件が増加していたことが明らかになった。
- (2) 殺人事件の被害者の性別で見た場合、女性が被害者となった殺人事件は、2020年が131件であったのに対して、2021年は135件と、約3%の増加となったのに対し、男性が被害者となった殺人事件は、2020年の1,178件に対して、2021年は1,023件と、約9.2%（155件）減少した。なお、殺人事件被害者の性別が特定されなかった事件数は、2020年の24件に対して、2021年は53件と、2倍以上の増加となっている。

- (3) 2021年の殺人事件で用いられた凶器は、これまでと同様に銃器によるものが最も多く、2021年は全体の64%に相当する771件が銃器によるものであったが、2020年(925件)との比較では減少した。また、銃器は殺人事件のほか、恐喝、強盗、誘拐、強姦に用いられていると見られている。
- (4) エルサルバドル国防省によると2006年から2020年の間、エルサルバドル国内において161,576丁もの銃器の登録が行われ、526,439件の銃器所持に関する免許が登録されているなか、1月25日、16の組織から構成される団体(注:人権団体等を中心とした団体)により、武器の携行及び使用に関する法律の改正案が立法議会に提出された。
- (5) IMLによる2021年の殺人事件件数(1,211件)と、国家文民警察(PNC)の右統計(1,140件)の間には、71件(約6%)もの差異があるが、IMLの統計には、被害者が殺害後に密かに埋められ、2021年中に発見された遺体の数が含まれているのに対して、PNCの統計にはこの数が含まれていないためである。

【観光地等における危険度レベル】

| レベル1: 十分注意区域 | レベル2: 不要不急の渡航中止区域 |
|--------------------------|-------------------|
| 国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA) | サンサルバドル旧市街 |
| ティン・マリン児童博物館 | 平生三郎公園 |
| エルサルバドル美術館(MARTE) | プエルタ・デル・ディアブロ |
| プレシデンテ劇場 | |
| サンサルバドル近郊のゴルフ場 | |
| ベンゴア球場 | |
| サンサルバドル市国立民芸品博物館 | |
| クスカトラン・スタジアム | |
| サンサルバドル火山 | |
| カフェタロン・フットサルコート | |
| ラ・リベルタ県のビーチ | |
| イロパンゴ湖 | |
| サンタテクラ旧市街 | |
| コアテペケ湖 | |
| セロベルデ自然公園 | |
| エル・ピタル山 | |
| ラ・パルマ市 | |
| サンタテレサ温泉 | |
| スチット旧市街 | |
| サンアンドレス遺跡 | |
| タスマル遺跡 | |
| カサブランカ遺跡 | |
| サンタアナ旧市街 | |
| オロメガ湖 | |
| エル・ホコタル湖 | |
| サンミゲル市 | |
| オロクイルタ市 | |

| | 窃盗 | 強盗 | 傷害 | 殺人 | 恐喝 | 車両盗難 | 車両強盗 | 強姦 | 交通事故死 | 配送車盗難強盗 | 誘拐 |
|----------|-----|-----|-----|----|-----|------|------|-----|-------|---------|----|
| 2021年12月 | 605 | 309 | 347 | 88 | 143 | 86 | 20 | 172 | 148 | 0 | 1 |
| 2022年1月 | 541 | 292 | 315 | 83 | 123 | 74 | 22 | 212 | 118 | 0 | 0 |

